企業版ふるさと納税事業が完成

▲市役所別館前のウェルカムガーデン

このほど、小城製薬株式会社からの企業版ふるさと納税制度による寄付金を活用した各種事業が完成し、昨年12月21日に完成式典を行いました。式典では桂川市長が3，500万円の寄付目録を受領し、小城忠明（ただあき）代表取締役社長へ感謝状を贈りました。

今回の寄付金は、市外からの来訪者を気持ちよく迎え亀岡の魅力を体感いただくため、市役所別館前や亀岡の玄関口であるＪＲ駅前、京都縦貫自動車道インターチェンジ周辺の「ウェルカムロード」「ウェルカムガーデン」の整備、また「森のステーションかめおか」における、当帰（※）をはじめとする薬草や地域資源であるチョロギなどを植栽する「薬草原」の整備に活用させていただきました。

▲ウェルカムガーデン（市役所別館前）植樹式

また同日、同社と亀岡市は「災害時における臨時避難所施設利用に関する協定」を締結しました。

同協定は、指定避難所だけでは避難者の収容が困難な場合に、大井町にある同社の工場施設を避難所として開設するために必要な事項を定め、さらなる安全の確保に寄与するためのものです。

亀岡市は今後も、安全・安心なまちづくりの推進に向けたさまざまな取り組みを進めてまいります。

（※）漢方薬として用いられる、セリ科シシウド属の多年草

▲小城社長（左）と桂川市長（右）

災害に強いまちを目指して
～亀岡市消防出初式を開催～

▲一斉放水、市民からは大きな歓声

1月7日、市消防団や市自主防災会など消防関係者が一堂に会する「亀岡市消防出初式」を開催し、1，380人の参加者が「火災ゼロ」の決意を新たにしました。

亀岡中学校体育館で行った式典では、桂川市長らが消防・防災分野で功績のあった個人や団体を表彰。昨年11月に市長表彰調査を受けた馬路分団には「優秀表彰まとい」が授与されました。式典の後、市内の幼稚園・保育園の子どもたちで結成する幼年消防クラブが加わり、会場から南郷公園までパレードが行われました。

最後は、南郷公園において市消防分団全19分団と亀岡消防署のはしご車による一斉放水を実施。1年の安全を願う放水が力強いアーチを描きました。

平成29年度消防表彰（敬称略）

消防庁長官表彰
永年勤続功労章　中井和寿
京都府知事表彰
竿頭綬　西別院分団
永年勤続功労章　田井浩二
精励章　茨木勝治・桂　裕司・秦　寛・川勝　亨・真継直樹・長尾博明・長澤靖史・法貴隆司・畑　仁・山田憲一・沼田国彦・石田祥隆・和田浩之・入江宏充・神谷由紀・石田智士・河原　誠・奥村　誠
自主防災活動表彰
亀岡地区東部自主防災会
日本消防協会長表彰
功績章　亀井伸一
精績章　菅原幸典・小川雅治・中澤ふみ
京都府消防協会長表彰
表彰旗　千歳分団
優秀竿頭綬　旭分団
功績章　桂　一雄
勤功章　橋本和城・中野弘基
精績章　和﨑　晃・丸山久喜・小早川大輔・川勝公栄・廣瀬貴史・廣瀬直人・西村匡史・下野勝也・松岡博之・永田忠輔・引田伸也・関本浩二・井上隆之・稲原宏充・長野孝佳・前田隆弘・吉田顕弘・中村眞悟

亀岡市長表彰
優秀表彰まとい　馬路分団
精勤章　足立慎吾・成田秀光・畑喜代孝・旦下部知行・高橋佳寛・新屋和博・齋田隆朗・中井孝光・桂　健二・藤本祥之
優良事業所表彰
NISSHA株式会社
住友みち代・松山徹朗・八木昭広・平井克樹・廣瀬友則・福井　優・工藤　彰・畑　健一・中村一夫・園田正範・市原　郷・細谷伸一・旦下部智晃・湯浅邦啓・野々村靖孝・俣野亮太・森下大亮・井上洋一・齊藤寛之・関口　優・大橋弘典・北垣直人・石野龍司・市原裕子
京都府消防協会長感謝状（退職消防団長等）
石田敏之・西田　亨・小澤一則・木崎貴史・森　旭宏・日下部勝也・中村雅弘・中西　康・山本　寛・松本武史・伊津節夫・小林正和
京都府消防協会亀岡市支部長表彰
上島俊介・須田和彦・岩崎晃幸・小林義昭・竹村幸弘・岡本祐己・佐藤靖児・圓山貴久・亜田真悟・井内博也・山本雄三・酒井貴雄・山内元徳
丹波地方消防連絡協議会長表彰
折竹基弘・長澤とも子・松本雅樹・木村奉真・近藤裕司・道場健恵・森　英幸・法貴大輔・勝山恵一・堤　豊・寺町宏史・森川穣治

亀岡ちょっと昔の道具箱⑱
第三百八十八回　文化財めぐり

テンヅツ

冬の寒さが身に染みる季節です。この冷え込みを利用して製造される産物のひとつに、寒天があります。寒天の原材料は、天草（テングサ）という海藻です。天草を炊いた煮汁を冷やして固めたものがトコロテンです。このトコロテンを、冬の冷え込みの中に干すことで、軽く乾いた寒天になります。

トコロテンを干す工程で、活躍するのがこのテンヅツです。切り分けたトコロテンを、この筒の中に入れて、棒でぎゅーっと押し出すと、この筒の先についている金網によって、細くひも状に切り分けられて出てきます。

寒天は、昼間の融解と乾燥、夜間の冷え込みによる凍結を繰り返して作る、天然のフリーズドライ製品です。ただし、雪や雨が多いと寒天がうまく凍らないので、雪は降らないけれども、十分に冷え込む気候が、寒天づくりには最適です。亀岡市域の山間部（東別院町、西別院町、本梅町、畑野町など）では、江戸時代後期から昭和40年代頃まで、非常に盛んに行われていました。その後は、全国的にも人工的に製造する工業寒天が主流になり、生産量や品質が気候に左右される天然寒天の製造は、衰退していきました。

寒天製造は、厳しい冬の冷え込みの中での大変な作業ですが、ご年配の人たちの中には、作業場に漂う天草を炊くときの不思議な独特のにおいや、南向きの斜面に広がる真っ白な寒天を干す棚場の風景を、覚えておられる人もおられると思います。懐かしい光景ですね。（文化資料館）

▲寒天づくりに欠かせないテンヅツ